

## 解 答

問1 冬に山に多く積もった雪が、春になってとけて大量に川に流れ込み、洪水を引き起こすため。

問2 武田信玄

問3 (1) 島根県

(2) 製鉄で用いられる砂鉄をとるために、山をけずったことに加え、燃料として多くの木材を伐採したから。

問4 分水の河口付近では、上流から土砂が運ばれ、陸地が広がっていった。信濃川の河口では、土砂の供給が減って海岸が侵食され、海岸線が後退した。

問5 1960年代までは死者数が多い年には被害額も大きくなる傾向があった。しかし、高度経済成長のころに各地で治水事業がすすめられた結果、死者数は大きく減った。一方、水害の発生しやすい地域で宅地化・商業地化がすすめられたため、水害が発生すると死者数が多くない場合でも、被害額が高額になる年が見られるようになった。

問6 (1) 21世紀以前は治水関係費の割合は2%前後であったが、21世紀に入ってから割合が低下し、2010年以降は1%を下回っている。

(2) ダムや堤防の老朽化がすすみ、今後、改修費用が多くかかるようになる。また、河川の多くは複数の地方自治体をまたがって流れているため、河川全体を見通した治水事業も必要となる。しかし、現在、国も地方自治体も治水にあてる財源を十分に確保できていないという課題。

問7 (1) 浸水時の範囲と水深

(2) 例) 土砂災害ハザードマップでは、周辺で想定される土砂くずれの被害やその程度を確認し、避難所の位置や自宅からの安全な避難経路を確かめる。また、ハザードマップをもとに、災害のときに家族でどのように避難するかを話し合ったり、必要となるものを日頃から準備したりしておく。

例) 津波ハザードマップには、過去の津波から浸水被害を受けると予想される地域が示されている。この地図をもとに、どのようなルートで避難するかなど、災害がおきたときの具体的な行動計画を立てておく。さらに、地震が発生したときに、自宅ではないところにいる場合もあるので、学校など自分がよく行く場所から近い高台や避難場所も知っておく必要がある。地域の掲示板などにハザードマップを設置しておく。 など